

市民の手による、市民と地域のための大学

宇治市民大学

会場 宇治市生涯学習センター



令和七年度前期「歴史コース」

テーマ「古代、国家の形成」

◆受講料

各講座一回 七百元

五枚綴りチケット 二千八百円

《歴史コース》と《宇治学コース》
で使えます

三月～五月の講座日に販売

◆定員 先着 200名

◆申込み 講座日、会場受付

致します 事前申込み不要

◆問合せ

TEL 090-8988-4383

宇治市民大学事務局 丸山

◆ご注意

生涯学習センター専用の駐車場は

ありません

第1講 4月5日(土) 午前10時～11時半

弥生国家論

～“国家”誕生の新視点～

桜井市纏向学研究センター所長

寺沢 薫さん

第2講 5月31日(土) 午前10時～11時半

古代刀剣と国家形成 ～鉄製武器の生産

と流通、軍隊の形成を探る～

奈良大学文学部教授

豊島 直博さん

第3講 7月5日(土) 午前10時～11時半

久津川古墳群とヤマト王権 ～久津川古墳群を

築いた首長たちの実像探る～

京都府埋蔵文化財研究センター

小泉 裕司さん

第4講 8月2日(土) 午前10時～11時半

百済・倭における南朝將軍号と府官制

～5世紀末から6世紀前半の王権構造

京都府立大学文学部教授

井上 直樹さん

第5講 8月9日(土) 午前10時～11時半

古墳を築く

京都橘大学名誉教授

一瀬 和夫さん

「古代(こだい)」
通常、縄文時代、弥生時代、古墳時代もしくは飛鳥時代から平安時代中期または後期まで。始期については古代国家(ヤマト王権)の形成時期をめぐって見解が分かれており三世紀説、五世紀説、七世紀説があり、研究者の間で七三論争と呼ばれている。終期(中世との画期)についてはも様々な見解があり、「十一世紀後半・白河上皇の院政開始(1087)」までというのが主流である。

<https://ja.wikipedia.org/>

主催 宇治市民大学運営スタッフ会

共催 宇治市生涯学習センター

宇治市民大学 令和7年度前期講座

講師からのひとこと

4/5 「弥生国家論～“国家”誕生の新視点～」

寺沢 薫さん

この国の国家の誕生は七世紀(飛鳥時代)というのが一般的ですが、近年、さらにさかのぼる五世紀、三世紀説が提案されています。しかし、国家の原理を追究する理論的な立場からは、弥生時代にはすでに国家が誕生したと考える方が本質を突いた理解であると考えられます。講座では、考古学の資料からその具体的な国家の実像に迫ります。そして今、このような考えに立つことがなぜ必要で本質的なのかを世界情勢との絡みで問題提起したいと思います。

5/31 「古代刀剣と国家形成～鉄製武器の生産と流通、軍隊の形成を探る～」

豊島 直博さん

今回の講演では、古墳に副葬された鉄製刀剣を手がかりに、日本における国家形成を考えたいと思います。

最近、奈良市富雄丸山古墳で長さ2mを超える蛇行剣が出土しました。また、古市・百舌鳥古墳群では数十本の刀剣がまとめて出土する場合があります。古墳時代にそれぞれが果たした役割を考えます。

7/5 「久津川古墳群とヤマト王権～久津川古墳群を築いた首長たちの実像を探る～」

小泉 裕司さん

久津川古墳群は、宇治市南部から城陽市に所在する100基以上の大きささまざまな古墳で構成される京都府を代表する古墳群です。江戸時代から古墳の存在が知られ、明治時代には久津川車塚古墳で長持形石棺や豊富な副葬品が発見されました。昭和30年代後半以降に多くの古墳が存在することが明かとなり、発掘調査が行われました。発掘調査成果などから、久津川古墳群の実態が解明されつつあります。今回は、久津川古墳群を通してヤマト王権による地域支配と地域支配を担った首長たちの姿をみていきたいと思います。

8/2 「百済・倭における南朝将軍号と府官制～5世紀末から6世紀前半の王権構造～」

井上 直樹さん

5～6世紀、百済と倭では、中国(南朝)の将軍号が重要され、南朝皇帝に将軍号の授与を求めました。しかし、同じく南朝の将軍を重視した百済と倭では、相違点も多数あります。そこで、今回は両国の共通点と相違点を論述し、当該期の倭王権の構造を理解するための端緒にしたいとおもいます。

8/9 「古墳を築く」

一瀬 和夫さん

土を大量に盛って大きな墳丘をつくる、巨石を運んで積み上げるということは、人々の結集力を如実に物語りアピールできる。古墳は、古代国家を成り立たせていくための初段階のまぎれもない証拠である。それをどう築いたかを、掘削と盛土、巨石の運搬と架構の築造技術、それらの設計、施行、動員など、実際の発掘例をひも解きながら探る。そのことで当時の日本列島支配者の実力を確認できるでしょう。